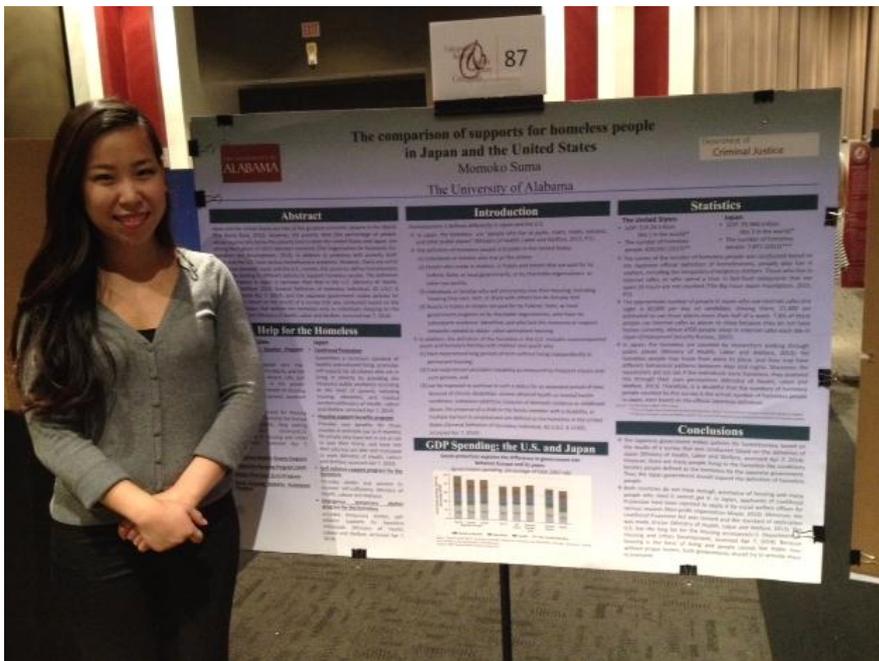


# 留 学 報 告 書

記入日: 2014 年 10 月 29 日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部心理社会学科
留学先国	米国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: アラバマ大学 現地言語: The University of Alabama
留学期間	2013 年 8 月～2014 年 5 月
留学した時の学年	4 年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	4 年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Criminal Justice
帰国年月日	2014 年 5 月 14 日
明治大学卒業予定年	2015 年 3 月



留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:8 月～12 月 2 学期:1 月～5 月
学生数	28,026 人
創立年	1831 年

留学費用項目	留学費用項目(US\$)	円	備考
授業料	交換留学のためなし	円	
宿舍費	7,000	700,000 円	
食費	3,600	360,000 円	
図書費	500	50,000 円	
学用品費	100	10,000 円	
教養娯楽費	100	10,000 円	
被服費	500	50,000 円	
医療費		円	
保険費		150,000 円	形態:明治大学経由の保険
渡航旅費		190,000 円	
雑費		円	
その他	600	60,000 円	滞在中の旅行など
合計		円	

### 渡航関連

#### 渡航経路:

#### 渡航費用

##### チケットの種類

往路	11 万円
復路	8 万円
合計	19 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

HIS, Studentuniverse

### 滞在形態関連

#### 1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

大学の寮

#### 2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数1)

#### 3)住居を探した方法:

秋学期は事前に大学に提出した調査票に基づき、大学が決めた。春学期は、自分で住みたいところを見つけ、引っ越しをした。

#### 4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

学期中でも引っ越しや部屋を変えることができるので、なにかあればRAに相談することをおすすめします。

## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

- 利用する機会が無かった  
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

友だち、留学生担当。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

在留届を出していた領事館からや大学からのメールをチェックしていた。大学内では下着が洗濯機から盗まれたり、盗撮をされたりしたが、大学側には対応のしようがないと言われた。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

現地でプリペイド式の携帯を買った。大学内はどこでも Wi-Fi がある。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードをメインに使っていたが、現金が必要なときは、ATM でクレジットカードからキャッシングをしていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

## 進路について

1) 進路

- 就職     進学     未定     その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

明治大学 大学院

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

留学中から学内での学術発表会に参加したり、ゼミ形式の授業や、教授と一対一でやる Independent Study などの授業をとると良いと思う。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
22 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません (理由:留学前に卒業必要単位を取り終わっていたため)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付して下さい。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intoro African American Study	
科目設置学部・研究科	
履修期間	2013 年 8 月～12 月
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	
授業内容	奴隷制度開始時から現代までのアフリカン・アメリカンの歴史や運動について。
試験・課題など	リーディング、ライティングが毎回あった。学期中に 2 回試験があった。
感想を自由記入	マーチンルーサーキングや、マルコム X など、有名な人物や有名な出来事しか知らなかったのが、導入レベルのクラスではあったが、大変充実していた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Environmental ethics	
科目設置学部・研究科	New Study
履修期間	2013 年 5 月～12 月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ゼミ形式
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Ellen Spears
授業内容	伝統的な環境哲学、環境正義、ケーススタディとしてアメリカ国内の環境問題について学んだ。
試験・課題など	毎回のリーディング、ライティング。学期末は、15 ページの論文とそれについてのプレゼンテーションをした。
感想を自由記入	ゼミ形式なので毎回しっかり予習をしてこないと授業に参加出来なかったため、予習には特に力を入れた。レベルの高い授業ではあったが、講義形式にはない面白みがあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to Sociology	
科目設置学部・研究科	Sociology
履修期間	2013 年 5 月～12 月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	
授業内容	社会学の理論や社会学者について学んだ
試験・課題など	毎回のリーディング、数回に一回のライティング。試験は 2 回行われた。
感想を自由記入	アメリカで社会学がどのように教えられているのか興味があり、履修した。グループワークもあり、大きいクラスではあったが充実していた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Gender and Society			
科目設置学部・研究科	Sociology		
履修期間	2013年5月～12月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授			
授業内容	様々なタイプのフェミニストの定義や、これまでに起こった大きなフェミニズム運動、現代におけるジェンダー問題について学んだ。		
試験・課題など	毎回のリーディング。試験は2回あり、最終試験の前に8ページの論文提出があった。		
感想を自由記入	日本のジェンダーに関する歴史や問題と共通する部分もあれば、アフリカンアメリカンやラテン系アメリカ人などのアメリカ特有の問題もあり、より深く知ることができた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Independent Study in Sociology			
科目設置学部・研究科	Sociology		
履修期間	2014年1月～5月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	基本的には一人で研究。週に一回教授と一対一で会う。		
授業時間数	1週間に60分が1回		
担当教授			
授業内容	自分の研究したい内容を教授にプレゼンして、それが通れば、教授がスーパーバイザーになってくれるもの。日米のホームレス事情、ホームレス支援の比較をした。		
試験・課題など	毎回のレポートと、論文の進捗状況の報告。学期末には書いた論文を基にして行った、大学内のコンペティションでのポスター発表が最終評価。		
感想を自由記入	同時にもうひとつ Independent Study をしていたこともあり、とても大変だったが、学部生のうちにしかも英語で自分の関心のあることについて研究でき、さらに発表の機会まであり、そこで賞を取れたことは、大変貴重な経験となった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Social Inequality			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2014年1月～5月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に50分が3回		
担当教授			
授業内容	様々な社会的な不平等の原因を、個人の行動や能力からではなく社会構造から読み解いていった。		
試験・課題など	リーディング、ライティング。試験は2回あり、最終試験の直前に8ページの論文を提出した。		
感想を自由記入	アメリカにおける様々な不平等はこれまで本を読むなどして知ってはいたが、さらに多くの問題を知ることができた。現地の学生にとっても知らないことが多かったようだった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Political Theory			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2014年1月-5月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授			
授業内容	政治学を哲学的な視点から学んだ。		
試験・課題など	リーディング。授業内でのライティングと試験が2回あった。		
感想を自由記入	大変哲学的で、内容も難しく苦勞した授業だった。期末試験と学術発表会が重なってしまい、試験が受けられず単位は取れなかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Independent study			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2014年1月-5月		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	基本的には一人で研究。週に一回教授と一対一で会う		
授業時間数	1週間に60分が1回		
担当教授			
授業内容	自分の研究したい内容を教授にプレゼンして、それが通れば、教授がスーパーバイザーになってくれるもの。アメリカの現在の環境正義について、アラバマ州ペリーカウティを例にして論文を書いた。		
試験・課題など	毎回のレポートと、論文の進捗状況の報告。学期末には15ページの論文を提出。		
感想を自由記入	アメリカにおける環境正義について日本で学んでいたが、現在どのような問題があるのか詳しく知らなかったため、課題として選んだ。教授は大変熱心に指導してくれ、履修して本当に良かった授業だった。		

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	
4月～7月	TOEFL の勉強
8月～9月	TOEFL 受験、志望大学の選定。
10月～12月	出願、面接
2013年 1月～3月	卒論執筆
4月～7月	
8月～9月	渡米
10月～12月	期末試験 ヨーロッパ旅行
2014年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	多くの日本人が「自由で豊かな国」と信じるアメリカにおいて、どのような不平等があり、何が起こっているのかを自分の目で見たいと思い、留学を決めました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力の向上はもちろんですが、自分の関心のある分野についてできるだけ勉強をしました。
この留学先を選んだ理由	公民権運動の発祥の地であり、現在でも保守的で、人種的差別が根強く残る地域ということが、私の関心とマッチしたためです。
大学・学生の雰囲気	様々な人種やバックグラウンドを持つ学生がいました。南部ホスピタリティという言葉もあるように、現地の人を含め、皆とてもあたたかく、過ごしやすい雰囲気でした。ただ、田舎の大学ということもあってか、服装や文化など画一的な部分もありました。
寮の雰囲気	秋学期は大きな女子用のドミトリーに入っていました。春学期になり男女 14 人ほどの家に移りました。パーティーや、食事をするなどアメリカの大学生生活を満喫しました。
交友関係	秋学期はヨーロッパからの留学生を中心に仲が良かったのですが、彼らが帰国した後は同じドミトリーに住んでいる人や同じクラスの人などと遊ぶことが多かったです。
困ったこと、大変だったこと	車がなく、町の外に行きたいときには誰かに頼むしかなく、生活のほぼ全てが大学内で完結するというのに、息苦しく感じることもあり、その時はひとりで NYC に旅行に行きました。
学習内容・勉強について	社会学の授業を中心に履修していました。アメリカならではの感じたことは、あらゆる社会問題が人種問題と絡んでいることです。また、それはリアルタイムで起こる事件や、自分の周りの出来事からもよく感じられました。これは、日本で学んでいてはなかなか実感できないことだと思いました。
課題・試験について	課題の量は多く、特に春学期に Independent Study を2つ履修していた時が一番大変でした。
大学外の活動について	
留学を志す人へ	私は 4 年から留学をしたため、なにについて学びたいかはっきりしていたことは、留学先での勉強のモチベーション向上にとっても役立ちました。勉強でも、その他の活動でも、なにをしたいか明確にすることは、様々な苦労がある留学生活で支えになると思います。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	勉強	ジム	ジム	勉強	ジム	ジム	
	↓	授業		授業	勉強	勉強	勉強
午後	授業		授業		↓	↓	↓
	教授とのミーティング	授業	教授とのミーティング	授業	↓	↓	↓
夕刻							↓
夜					友だちと遊ぶパーティー	友だちと遊ぶパーティー	